

女子医大事件

レセプト添付書類・手術記録

脳障害記載なし

東京女子医科大病院の心臓手術ミスで平柳明香さん(当時12)が死亡した事故で、診療報酬明細書(レセプト)の添付書類や手術の経緯を記す「手術記録」に、明香さんが手術中に脳障害を負ったことが書かれていないことがわかった。

いずれも手術チーム責任者の医師瀬尾和宏容疑者(46)に証拠隠滅容疑で

逮捕IIの名前がある。警視庁は脳障害が起きたことを隠すため、意図的に記載しなかったとみている。

「症状詳記」という文書

が添付されていた。明香さんは昨年3月2日の手術中、人工心肺の操作ミスで血液が送り込まれない状態が続いて重い脳障害を負った。ところが、症状詳記には人工心肺に不具合が起きたことや脳障害の発生についての記述はなかった。

心臓外科が専門の医師は「『症状詳記』は治療が妥当だったかを判断す

るための記録。本来は手術中に発生した患者の異状を書くべきだ」と話している。

女子医大小児心臓手術事故

改竄・レセプト開示

2002年7月9日 朝日新聞